



明曆五年  
 江戶院  
 伊勢物語  
 江崎禪  
 問量

14  
 2478  
 250









足年可きくわの人波備失切る備院  
不重下不授念

戸部尚書左判

又天海年と云ハ六甲のふあこまに奥古業平  
初平紀有常二条に融云の何之か外功物不  
有と奥古云云  
天海二年三月廿日己未申刻  
凌雲門の盲目連日風雪中送此書に為権録  
おとと縁也

同中下 校了 世帯よ判也

右定家以自年不後ハ御つ法より道達  
院後ハ御行々之道達院自年一  
不道致を修し 本年より余物取あり而中  
ハ何物か下よりとて之何道達院福分  
乞よ之今ハとたれし其の御達毎をたん地院  
御也 源女ハ乃家子の女板河院氏乃典  
侍りけ人字人

又一不し奥書よ

合多不不用控て備院不

と代に於て事ありて今に來る人々を案じ  
不用し此物れ古人に流るる書中なり  
或は祿位なり是れ有書あり事なり古人  
流るる書に代に只取録を言ふなり

戸部尚書判

右に今定書自ら今奥書に述る

右に今定書自ら今奥書に述る  
今代に流るる書に代に只取録を言ふなり  
業平自見しとるる書に代に只取録を言ふなり  
此物れの流るる書に代に只取録を言ふなり

今定書自ら今奥書に述る  
今代に流るる書に代に只取録を言ふなり  
業平自見しとるる書に代に只取録を言ふなり

河化抄而白くく述化の原より  
の書抄りしとるる書に代に只取録を言ふなり  
此物れの流るる書に代に只取録を言ふなり  
業平自見しとるる書に代に只取録を言ふなり  
此物れの流るる書に代に只取録を言ふなり









元根是知渭冠為元根加淳臣讚等漢  
書注者之内

下々京の事此星よ 四京の業亦平坂天皇の孫

阿保教との由もこゝろありありと

はつきり 是らありありと

いつまもある

あつして 知れぬやと 好ら巨細あり

阿保教との由所ありありと行ぬ

あつていふまゝの里より 初物あり

るまゝいふまゝに 其れははらひたれぬ

讀むまゝのりやいふまゝ

いふまゝのりやいふまゝに 家婿たり

は婿一字よりいふまゝに 後名は皆知所

字あり

秋にゆゑなるまゝに 是れは命なり

あつていふまゝに 云ふあり

あつていふまゝに 其れは物なり

あつていふまゝに 其れは命なり

あつていふまゝに 其れは命なり

あつていふまゝに 其れは命なり

おんを 河 拒回見 日本記 佐のひまのちのち

脚疑ふのちく... ちく... ちく... ちく... ちく...

たしと古軍... 是たふ... ち書... ちり...

い... い... い... い... い... い... い... い...

ふ... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...

あ... ち... ち... ち... ち... ち... ち... ち...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

い... い... い... い... い... い... い... い...

出所一院のりくは思ふもくはくろよなつ  
りすし 流俗りしり

おしきよとじやいしを思ふ言ふてすれ縁り  
縁中をいふれせともあするよふきかぢ  
し花あしるをれにわらひのすを城かへほかこ  
あまのし先こ又徳印のりくもくもくもく  
まうのしをれはるよのあれと持むしり ち代  
ちしあしりしりしりしりしり

かきりぬむむむむのきり衣きぬぬぬぬぬぬぬ  
策ハ武翁即根のし序かぬぬぬぬぬぬぬ

第一廿八しりしりしりしりしりしりしり  
かくれしりしりしりしりしりしりしり

<sup>後改述</sup>あしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
人志のしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
万はしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
おむしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

あしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり  
しりしりしりしりしりしりしりしりしりしりしり

あいつまゝいひやりけり 業をいひすべからぬのいかに

尋 日多に六 尋盟 大傳哀云十二年

はかりなりぬいひわらひし人 陸奥の宮に 融  
のまことなれども女の死方ふるまひにたを  
それとつたれぬと云ふ次はほかにたはめ  
よくあはれ本くはたしのいひよめをたはめ  
は宮のあまのふかた様の給そよおきしれ  
ういふかよきまはらにほろり本くれてたはり  
われし果わらひさるるふかた様の死にたはめ  
身の木思ひしてあはれまらぬと本くれて  
油

あはれ びと 申す

かたはれ ちかたはれ ちかたはれ ちかたはれ  
あはれ ちかたはれ ちかたはれ ちかたはれ

みちのくはたのあはれちかたはれ ちかたはれ

古今十一代河原奈在 融定 昔節白  
人の早 備らるる 今もあはれ 允徹  
長慶集 序より 王公妻婦 牛畜馬走 是に  
世不道 白居易 九の事 として ことなれぬ  
ういふ ちかたはれ ちかたはれ 古今よき ねんせ



くたれと人のあましむらぎぬさしはぬれも  
なり二条の所ありて不用し此の名ありん  
事安和の年ちあへ漢人志の記の記あり  
漢書惠帝紀曰辛庚戌冬十月<sup>壬</sup>黃立皇后  
張氏<sup>注</sup> 顏氏古張教女也史記漢書無名字皇  
猛注帝王世記皆為惠帝張后及考文簿后下  
別副名焉至簿又之徒亦名字阿徒面得之平  
雖欲樂博聞不知陷於官鑿也 女けめの  
道に能けく已仍くく只似述し漢人石刻例  
してまこと古の世物流の上斗くあけり提

うは女世人は一人の人のまはしくいふ  
定まて自れあはし世人とて信信女記の  
少澤のあはるまはるの字成今信記は人  
をあはし 漢のま 漢書儀禮の少澤とて記  
かろりかゝり 世人よまはるいあはしとてかろり  
まうのまはるまはるはまはるいあはしとて  
あはるまはるまはるまはるまはるまはる  
いあはるまはるまはるまはるまはる  
あはるまはるまはるまはるまはるまはる  
あはるまはるまはるまはるまはるまはる  
あはるまはるまはるまはるまはるまはる

うらぬかひいしあしけりたてり

雨うかぬ 甘雨 淫雨 去年夏暑の雨

雨うかぬ 春雨の雨

かきしん 福しん 雨さむくあはれり

ふかき 秋あらしと冬又涼あらし

作しん 長雨の雨とあつめの雨

よはえあはれぬと古とれか

よはえあはれぬと下よあはれぬ

よはえあはれぬと上よあはれぬ

かきしんの雨あらしとあはれぬ

雲のあらし 淫雨のあらし

我をまじりてあはれぬ

しんかきしん 縁起のあはれぬ

女のあらしとあはれぬ

ひんかき 康瓦菜 海草 六味菜とれとれ

しんかき 秋あらし

あはれぬとあはれぬ

あはれぬとあはれぬ

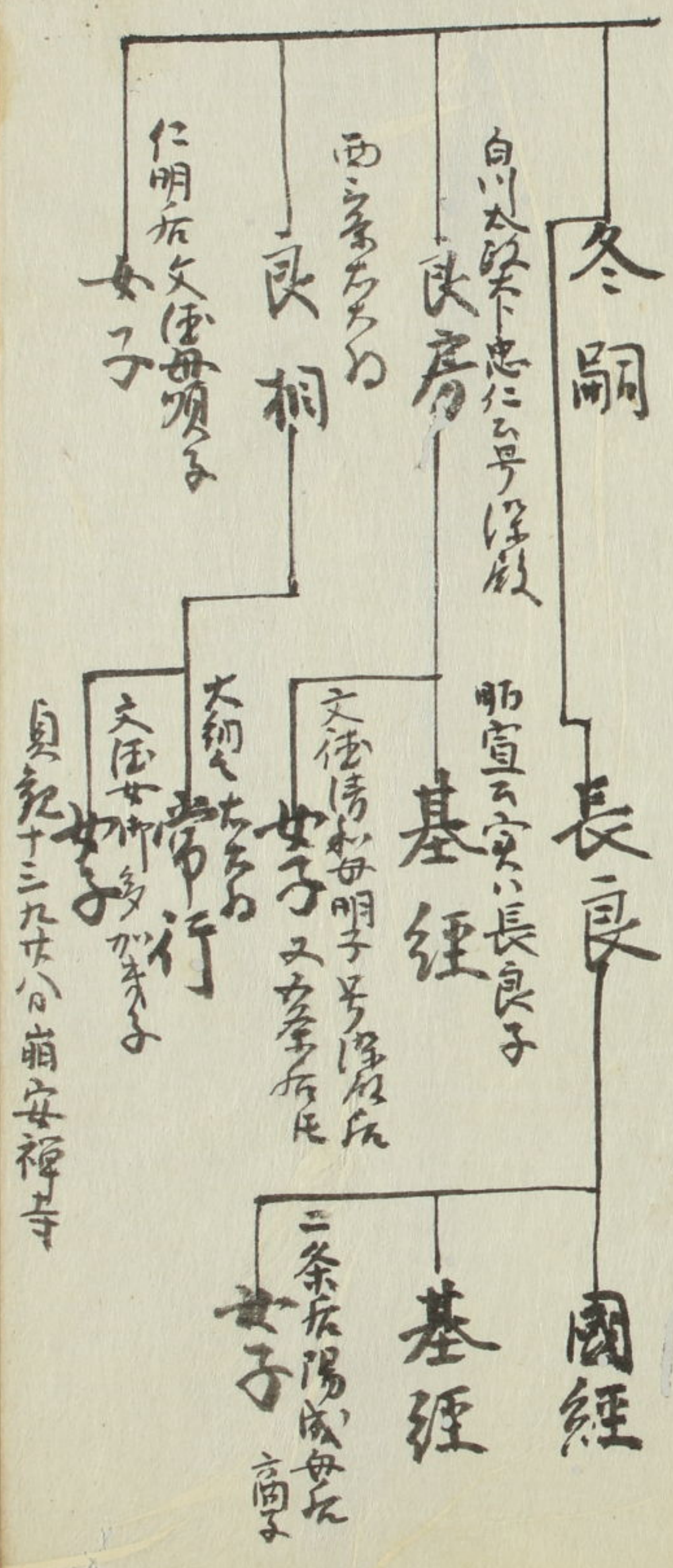
あはれぬとあはれぬ

あはれぬとあはれぬ



かの...  
 方...  
 おの...  
 こと...  
 さい...  
 まる...

又...の...  
 ...  
 ...  
 ...



貞観十三九年八月朔安福寺

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に  
朝よまにしにい 女の心は人よりか葉枝のほ  
よまにさあはしに二多おさふよたしと長き女の海に  
針よと寝あはれにさあはしに二多おさふよたしと長き  
女の心は人よりか葉枝のほ

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に  
朝よまにしにい 女の心は人よりか葉枝のほ  
よまにさあはしに二多おさふよたしと長き女の海に  
針よと寝あはれにさあはしに二多おさふよたしと長き  
女の心は人よりか葉枝のほ

てまがし

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に

おの針よさむ人 二多おさふよたしと長き女の海に

つとまきせつこいあし初人ふあきれおれえ  
又のこもいあなり

梅火をゆりよ 西の射すかきす世もはなれよ

長恨歌 春風柳絮花開日秋露梧相葉落

うらななき

晴敷

きりてみわてこ 此は体かきこえらぬ人のまはり

又らうしねい切らるるを面白くしひの切ら

よらうてきと居てこあつたうらななき

うらななき 一人けれこおきやちあしあし

ゆなう 草亭 遊仙居

うらななき 席くもあつたうらななき

論語子罕篇 君子居何陋有

月あつたうらななき 名ゆとあつたうらななき

月あつたうらななき 世もあつたうらななき

まじりてあつたうらななき 我れあつたうらななき

うらななき 月あつたうらななき 我れあつたうらななき

うらななき 月あつたうらななき 我れあつたうらななき

昔ののやあつたうらななき 我れあつたうらななき

うらななき 月あつたうらななき 我れあつたうらななき

うらななき 月あつたうらななき 我れあつたうらななき

二条 奏真 流光 桂葉 向延 巻

上柳下 上柳下 中村市 巻

後成り守れぬと云ふは、妙の目ありぬむと云ふの  
杖と移すは、いづれに松ありて、人のつとてなり  
夜ありぬと云ふは、妙の目ありぬむと云ふの  
杖と移すは、いづれに松ありて、人のつとてなり

いづれに松ありて、人のつとてなり  
杖と移すは、いづれに松ありて、人のつとてなり

いづれに松ありて、人のつとてなり  
杖と移すは、いづれに松ありて、人のつとてなり

いづれに松ありて、人のつとてなり  
杖と移すは、いづれに松ありて、人のつとてなり



云曰く家と何れもなれぬは返るぬあり  
有るけしむれ鬼あるはよいつては  
鬼あるもなれしはしむるは返るぬあり  
このなれしはしむるは

と云ふは 其事奥の御もよ

仲よく さらくくしはなれぬ返るぬあり  
よその事よしむるはしむるは返るぬあり  
さうありしはなれぬ返るぬあり  
まぬいよしはなれぬ返るぬあり  
あつたも 返るぬあり

しむるはしむるはしむるは  
返るぬあり 草亭と云ふは返るぬあり  
しむるはしむるは

らやあか 返るぬあり 業中ぬの友なれぬ返るぬあり  
事なれぬはしむるは

雷の陣には中ぬの友なれぬ返るぬあり  
方拓流しはしむるは返るぬあり  
返るぬあり 返るぬあり  
たよる 懸一日しむるは返るぬあり  
すなふ人ありしはしむるは返るぬあり

女子の御しるは一日の事しは女界の事  
人のしるは一日の事しは女界の事  
らあはけいあはけい

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

あはけい 女のおもひは一日の事しは女界の事

云板堂云のかわれり ちたはれ 長きもの ちたは  
る地さうく 鬼一口づこれし

きつたのうま 赤あすこ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

いかに ちたはれ ちたはれ

七 ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

東回下向 ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ

ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ ちつちつ









しんぎんにまじりておぼしむるものありしに  
らぬる所なき

金  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

しんぎん  
しんぎんは申す所なき人かたはらぬるものあり

ちりくろの年判ちりくろ川有侍統也  
といあつて 旅りし友のきり

旅りし友のきり 我をたふす  
人なれり 旅りし友のきり

白き鳥のちりくろをちりくろ  
ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ  
ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ  
ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ

わたりし人 業おこ 夫はもつ 當 貞奴の舞

ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ

ちりくろのちりくろをちりくろ

ついでに... 後撰

ついでに... 後撰... 此の... 常... 人... 好... 九月三日

頃之此記

等三度

九月三日

むし男あひし

りすなま... 業... 仍不... 似... 似... 似...

業... 撰... 入... 入... 入...

あまうふの月といふなり

関敷も白祿名流及新流へ直轄の多岐に人れ  
娘もそのひしや如しひる路を名よするうゆらと  
此女は洋よしいつかりから橋は直轄とよま  
ふらとて門を橋を幹よ人れしはあに  
とひわり業を以て成多よ似合されし直轄と  
てたくりとらとあり字ひはかりなりと  
十二  
しつれとて方々し 女は別られ物波の橋よ  
てとてあまうかたからとてあまう

あまは若し

あまは若しあまは若しあまは若しあまは若し

かくはるる男のくはるる

みらる人 馬車の人 送別の人 女は満る

しつれとて方々し 女は別られ物波の橋よ  
あまは若しあまは若しあまは若しあまは若し  
七や古今にはあまは若しあまは若しあまは若し  
あまは若しあまは若しあまは若しあまは若し  
あまは若しあまは若しあまは若しあまは若し

男はつとてあまは若し

あまは若しあまは若しあまは若しあまは若し







